



再來 田舎一休

儒釋

第二

目錄

儒佛一致の論

新氣徳我位

あやほろ此起

自悟之間

同異 並見解

四ノ

二卷

再来回舎一休 偽釈

偽佛一致別後 義氣施戒任

新在法門曰ヨリ 既ありふともろハ穢のガ
たわらまそに 憚新大ハガ 衆生漢
どうともろの 偽教のハ 法ニ 回して 戒の
國ともろふ 異なるハ 何れ 仏法比 奇 特 法
然り 経ハ ざるク 二休 曰 佛 法 也 奇 特
凡一 偽 仏 也 異 なるハ 也 一 下 也 戒 以 佛
を 識 知 して 其 變 化 妙 用 也 忍 乃 此 外 聖 人

三十一

元燈大くく佛を之を説ぶもも所一一回地
 經ハ傷佛ハ一致之を修す歎曰一た之
 ともらえの異なるともらえの業出家
 少其異なるともらえの業出家の人は
 其の同じト記取成濟うことを依依此廣大なる
 ともらたり業ノ人ノ本ノ方事と修す
 マ人ノ毎と次大と成終ハ合息とと
 業ノ安く者益たく濟ハ者認と号と
 此乃ト六經ノ日難道別意道終以不

見道出家在家士農工商之高格己ノ作業ノ
 うらふあらはさのもこノ作業を離くるる
 道とと業とのと求メハ此と終るまえ道
 と見るも能く行を道と云我り法性ノ
 體行して少さから事修く修るもともく
 心念ノ想ノとあらふ心ノ体と累と次とも
 出家在家業賣過番ふたらととととをあらふ
 不あらふ心ノ無碍心在たらる是と名
 也ノ修界ふは出家在家士農工商各

貴負賤苦樂得失隨從橫種之轉化
 一々定内之六之何一是誠諸事無常
 ことら依也い一とて又介障よあわくハ望
 滅の相と中あつるを證と決するをい
 い侍よあわくハ増大とてなく滅するも
 元何く是と不生不滅とつる如侍の至
 傷よは天命とといひんぬよは法性也
 といぬ家よは本来也而目とてい
 免の習とていなるはこそ其一なる



ともあたるの昔の家ハ一啼の黄葉依位
 ぞ依位心就と侍て見性流道の介ハ知
 夫ともなく流る事も何一是師をり家也
 考特なつといふ何の考物とつ流じ傷家に
 々々等々人強と云く君ハとよ香く長ハ
 侍に早一と下分ちとく財と修め家依
 齊へ礼樂刑政を以て國天下と治し家
 ありと下分ちとく廣く下賤ふ交つて
 人の吾ハ依勸め而依退るといふと依



人々を教ふ進じぬ事とマカハ貧乏の事
 元来く嘆息家去る事なく怒家去る事なく
 年々夫々其の如く天下治め次々と治まる
 至一故一依法あり礼樂刑政と不用
 文成法は福成武と率とを依り自ら
 礼法布是其異なるとも也治と元は位
 りも人倫と礼と國は法成治く治の教に
 ハあり次礼樂刑政ハ其國の治俗は但次
 只出家ハ法後の役人たるも廢く二あり

更々これハ化と布去る事わさる次故
 此等此人倫を離れて變と断乞食預
 法の行と何れも業を棄て着火の事ハ
 馬也一能く操多福作のきくふうく記
 く更々其の事をも善く以て勸め善く以て退く
 出家の作業なり去る事天竺三教の遺
 法なり故一出家ハ佛に使事なる新
 教一也と遊居る故一其の出家ハ其
 自性と悟りて其無欲の仙壇を建てる



心俵本覺の如きは安直して淨意の慈と
直不第の如くと念息しあせむはくは
とていひてをさすかつと物とされは世の
能くを返るを善く却て人を迷はばは
自性の体は善を法しあせむはくは
善の方便の如くはと志く何の儀
文とくは依の儀と勤は善くは
はととを系大はくは九列あるは
の如くは依の儀と勤は善くは



の如くは書し淨法に云ふは万人百姓の如
と云とて淨法に云ふは万人百姓の如
うたうとて浄法に云ふは万人百姓の如
と云とて浄法に云ふは万人百姓の如
一生苦勞しとて浄法に云ふは万人百姓の如
因果よく非業は死とて浄法に云ふは万人百姓の如
魚鳥は實よく教をたつたは浄法に云ふは万人百姓の如
徳者の如くは浄法に云ふは万人百姓の如
浄法に云ふは万人百姓の如

書一
二卷

二

死めりしとてふ事ふは、
 石地落とまきハ六道の辻ゆく極楽
 の子引とらぬは國家の福まら火付盜
 賊とて見付たハ、まらせありて、
 執つて救ははれず、
 いまめあして在家此人ふ志つて、
 且あつて在家の人あは其意に、
 主人マ親方ゆゑ、
 をじて、

あつても、
 いふふ、
 とする人、
 うそを、
 とするれ、
 づく人、
 にうた、
 ねらふ、
 ちよ、

五つ成りて八束せよは無類の徳を
 此を生みしと悪徳を起さば死しあはる
 小遣ふらやとくく人の若くは導く
 去とくをハ生次くあ出家の戒律と在家
 此人よまきくめ史ふかくれあうとやせいと
 うひの親ふたうきまあ守へあうの切
 徳ふたう終五心たうく念仏とそん中
 そは佛よなる終廻白の陽子部取た陽
 とあは作らく罪を消てたうたう終把

下くぬ者ハ地獄へ落ちるやとく
 一は度く此妻は子の難人の大勢こみあの中
 へ押さる多くとくといふとあふたうとく衣類を
 一は度く此妻は子の難人の大勢こみあの中
 下ははさくくめ者てとくこのやへへとく
 下ははさくくめ者てとくこのやへへとく
 せりくハ主人とて失ひしうこ家空らあえ
 わりく是ホの害ハ活日性の佛よるも
 欲の佛とて書ふらめ教りし人たは徳書

たゞしむく漢より新し等此のりし徳を見
毎わき見し由へ異端のそへへの世は善を
大いしむく心は除ふれぬとてその
あつてもその是は法の罪ありあはれば
大いめいしむくならん達上人の心達し
悪智識はつち教へぬを罪となすゆへ
室ひし心や在家の人を國にあらば
あま鳥獣ハ氏の回島をととあふを
これを救はしむく禁をなせりし人の徳

あま鳥獣よふるよて百姓ハ何とわらふ
成納つし心業は廢し奉貢よはせし
ふそのあまらに悪事巧を人のあまら
この盗をもちんわのたれしむく
鳥獣を物を作つて坊主と法をいふれ
何の功德もなすそへあまら
教をわらふそへあまら
在家の人て出家の戒律をもちむくハ
に本はさるれはあまらげむく

其のハハ等の人倫をわかつた人ハ人倫
 若作業後法とありて正徳の意を辨ひて
 了る者の仙位をとりて一自性本來此位
 に當りて大と成るは次のをいふ佛と當り
 てもつたハ今日の心体正一而邪の位
 正位をさくも死くもあつたもつたハ正
 義ハ決意此の正一もれハ後少と悪も成
 なる事と及見ぬものなりこれ少く生死
 の事も念息ちつる處一出家の戒律ハ

其の此作業ハハあり決意持と求むハハハ
 此の心より自性成徳とて此世欲此心体に
 ころつた此の善くふと悪くまじりて此の
 淨穢をわき守りて守りて守りて一是現世安
 徳修生善下の道なりゆて出家と志すは
 宗滅を為此の体よつて乾坤と踏やがら
 三十二天とといひて梵天帝釈と目の下
 に見おぼし一是非真偽とていふことと
 心大虚の心とて教を達すとて九香

さら夫と云はば一に出家して志は人倫
 此率を備へて馬を養ふ事と云ふ
 下をせんや今俗人此禪を養ふ者
 一に一向小自憐憫の至るは亦もは
 認神の法門と一二の免え我の勤
 入る款如達六を八に入勤此法より款
 達六を八違出く毎よせは多は只禪を
 勤勉のゆくれ家と云ふは是俗人ハ
 うらみえあは出家して代わら行も

是は次ふ大にばらたけしと禪家此内は
 之のたらしむる人をもは次を見
 一繁達六を八といふは法達り在
 此勤勉の成りしむるに由るなり
 之のたらしむる人をもは次を見
 一繁達六を八といふは法達り在
 此勤勉の成りしむるに由るなり
 不省者也情弱ハ自を非と知らば
 情の向ふ下は是と云ふは不能者
 返りては次は我憫の法見わら勤

七いふ物ふまゝの情是と我らまゝのこゝろ
 百五乃根えたる下りて居る者八物も多て
 忽ち少くもなるはとて居る者八物も多
 地と云く人びとこゝろの勢成はしむ
 故一と一人界を悔ふもいへしと勢
 是は時人の情離れ及ぶと終ふも成
 滅次下候の喜もたなは活達も在成
 者八情のこゝろふしりて居る者八物も多
 是は時人の情離れ及ぶと終ふも成

と云ふまゝの情是と我らまゝのこゝろ
 此は遠くこゝろと一頁登日主ひとふ
 如く曰亭主史ぬハ三寶を信一と信
 題目の祈者たるは沙場ハ出家也とて居る
 信教は法とて信を成達とて居る者八物も多
 今ハ何事そと二休曰文信とて居る
 わくは信とて信を成達とて居る者八物も多
 史ぬの信は一とて居る者八物も多
 是は時人の情離れ及ぶと終ふも成

釋迦もえれりとも老子莊子もえ達
 てとも同しきことなり又仲るなりて今
 此の如く持所の我悟と同しもの執持
 るるりく種く此の如くかゝるものたるも
 以希しは信者えなく仏者えふし其真
 實此法性のもたるも其靈覺も極く見
 るるるるなり信佛の小異ありとも
 いつるるるるるるるるるるるるるる
 此の如く我の多淋の無碍自在なるも

六

末生も我もふりての終り終りに法華
 文解去えそれなり小釋佛小成と成
 ちあひくはるるるるるるるるるる
 欲も我悟もこの二つはあはれり
 とも如く末生もあはれりてぬるるる
 是と生死の苦海も公のあはれりて死に
 此事ありありは次能はれりて苦海と後
 此の如くハ書六經の諸もる者も孔子
 徒ふありは次と云佛題目を評後と後

至るはは者之教之徒亦あつた人成
勸めく免む一自のあはる者ハたす
これぬまのなり

あやけり此起つ

二僧曰沙坊ハ只じとくはつらおほえと
くははる者一とく禪家の文口ハいんに
くくめぬ事なら二休曰沙坊達ハ五月の
月分知給りとも者ともろハ二尺四寸夜下
ハ冬一林の外ハ五月の地から出れとを寅の

地をぬれハ用たつたは云縁を一川の言
使たりと教をえつらけりしとをたはは
ひと云ましに於るは人此奉よ入
まし一沙坊達の快後を道つとまの
上沙坊あやけりと言をいつとを奉ハ
教の方便たり故よ大平元年のあはる義理
記まか古来の記給の内あはる義理此心
一記まらる者志長の君父のいふを
道は云一とらとら成教は一と平は

してまじひのいひとてうらなくは違は鏡
 鏡とまじひ太平此世のそまに
 及軍とて形とて先とて作
 わりたりは仕組むまじく人の心
 づらやうは作らう多義記の心は導に
 不義と道たうとのハ世利とてはくも
 終はは滅らふと成とてむじく信の末と
 りくちとてとを邪に成とて善の成用
 志むじく免れとて一たも我末のいふとてハ

細心辨養なるを名とてむらそり軍はま
 証とて一と選むじく一たも背此并分一の不
 里とて立終とて力とてあへてそのの勢ふとて
 太平此世とてとれらるれとて一たも二月
 維新の心を女ハ肉と活むる者たれハ切らる
 世帯る具の形はとてとちむくめはとては
 此儀則とて知とてんく先なる活とて一たも
 次とてつとてれ一とてハ後後とてあはれ
 を習ふ此世小習ふとてと實とて一たも失ひ

一、ついに決して多都るをまにたうに
たふかひし善佛を題自えり實ハ位さか
うし多寂り自性の佛と味證次す一人を衆寂
對此證所すを無一人存くを呼ひし
そのく徳を養へ一人かち善化をこの道種
なれど其人善禪家より寂りかちを悟り多
所本來の面目かち徳さかめくたまきりひ
こころせくハ思惟の人念思きりしつら
各ハ後後えしむべしつらに後後人さかり
ら

うきとも同百人一人を位成かこ
吾にきりハ大利益なり進を満す
者此名家社人のとそと人五く我ホ此
近存ふ来り教とく一後ありのあし
百姓の財持人情の變化親睦朋友の交
下人の使ひしやまきり并ふ引うあて
情儀よくつひしつらたまなれハ非の流ん
みえかあひ夢にきりしつら非の非を
がくしつらとく徳を養ふて非欲此んあ
ら

いづれも形として之も魚の尾の如く次を極
 口にいれくせしむるに就ては
 しるしむるも一毎ありて事なく欲りし
 こゝろと見えたる故に村里の野人感化して
 後のやうなるありしは次非んやんし
 なる者おほいなりぬ多分授け受取也
 かつたあまは只正直し一毎非んやんし
 大と依りてしるしむる代友名を等と名
 大と依りてしるしむる代友名を等と名

平生此財持た人なり彼等其あり一毎
 精進しし人此位をいふく篤うる
 此後後之せり多被許道者不との蓋
 あり人にも悔りし一毎功法を大底人
 皆信性をもあくる者なりハ善く感化
 此後之り大也何し一毎ありし
 此後之り大也何し一毎ありし
 人を亦靈化あり

自性之回

同儒者此自然以修其身也佛者此自然
 悟之也其所以然也曰自然之也二以
 以之也其所以然也其所以然也其所以然也
 道成以修其身也天地之間八阴阳此变化
 のも阴阳变化之く万物成生此之也
 と大極也つる色も何れ形も何れ色之
 ちく臭之何れ始也たう終をたう
 象よりつる次一毎法象是より象出は
 ハこれ何れ大之師とつる老子ハこれ何れ

去北也つる儒者此自然以修其身也
 成命也つる天ハこれを稜動なり毎造化の
 會なりと會と傍りあるを玉と名付人の
 全人とも名とつる夫とも及少ハ在形此
 先なり何れハ天ハ道徳の稱号也知魚一
 元く皆形ありものを傍りて何れなるもの
 此先と次先ふまじりて何れ次故に老子を
 先の名とす會とハ此先ふまじりて何れ
 一つ道徳を何れとつる次とて



陰陽と不離此造化の自性不戒の体に
眞くこれと性といふ自性此用變化
流行し喜怒哀樂此情之大本失ハ
ざらこれ此道といふ故に思中庸は
率性之謂道といふの自性の靈明これ
知といふ是非邪正の如く一毫
此私をさすものなり知覚の發動し
別しつれば是と意識といふの体も
有し此意識の情小交り此言此

正性此變化の自性不戒の体
自性と不離を奉んといふ
好悪此情の自性不戒の体
奉性此情の自性不戒の体
私知此情の自性不戒の体
之思惟此情の自性不戒の体
一此情の自性不戒の体
之此情の自性不戒の体
に具し此情の自性不戒の体

二二二

性も真如をも我ら宗少は本来此の目
 也をりつかりをきつては次を色とをて次
 主靈の十方世界を照と者是と本覺也
 つつ主如用義相圓満ありあまた沙界
 遠くくはく須弥山と丸のりありあを噴
 ふもるる事如とこととらとらんあ内ふ激し
 毎類のあもふとと是は見性といつては字ハ
 他主とていひ階級は不立也といふも是ハ
 心といふも是なるは其なるは情知とてその

福みのるも意減此の別迷身一多二毒
 に和しとゆく此地獄を作すといひうら
 形不堅在し一毎生死の苦海不沈溺も是
 を六道輪廻と云ふも穢染のともるハを脱
 此を脱とてらふありは此のうに脱して
 了れハ衆二義ふお川何きとて聖人此
 道を衆信なりとも信なりとて勝も是
 に聖といふことうくり信を修りては性
 人信も及信といひ佛といふは先もふく

何れ世界ハ我レ世界ナラニ為裸トシテ
 何レノ中ニ登座トシテ我レ
 其ノ何レノ人實ニ其ノ命ヲ
 生死禍福ノ間ニ迷フヤ人ト
 誰ノ人ト云ヒ雖フモ其ノ
 其ノ何レノ人實ニ其ノ命ヲ
 生死禍福ノ間ニ迷フヤ人ト
 誰ノ人ト云ヒ雖フモ其ノ
 其ノ何レノ人實ニ其ノ命ヲ
 生死禍福ノ間ニ迷フヤ人ト
 誰ノ人ト云ヒ雖フモ其ノ

通シハ我レハ何レノ者ニ
 夫ト云フ中ニ我レハ何レノ者ニ
 佛法ニ信シテ我レハ何レノ者ニ
 夫ト云フ中ニ我レハ何レノ者ニ
 佛法ニ信シテ我レハ何レノ者ニ
 夫ト云フ中ニ我レハ何レノ者ニ
 佛法ニ信シテ我レハ何レノ者ニ
 夫ト云フ中ニ我レハ何レノ者ニ
 佛法ニ信シテ我レハ何レノ者ニ

なる聖人、假ふと見たり、佛も假る夫と見
 ぬ。我宗もは此の体以主人為といふ道、
 是より出の初、來りてとて、わ、子思
 中庸、わ、わ、く、元、率性之謂道といふ、
 堯舜孔子、假る夫と見、わ、わ、初、釈迦孔子
 ハ、奉初なる釈迦孔子、此道、わ、わ、初
 又、道、わ、わ、習、く、先達、わ、命、ぢ、く、色、く、者、也
 伊尹、わ、亦、四、わ、八、天、氏、之、先、覺、わ、わ、者、也、
 佛、ハ、先、達、の、教、導、も、わ、初、を、く、西、ハ、なる、と、見

宗へたれと見え入り、わ、わ、初、なる、入り、て、
 釈迦孔子、ハ、キ、洋、國、を、導、く、この、た、り、
 了、さ、め、く、も、初、う、わ、わ、く、マ、川、を、ハ、我、宗、
 此、達、ハ、佛、宗、を、は、住、子、を、を、り、て、わ、わ、初、
 杖、棒、を、わ、初、た、ま、き、き、く、ま、い、マ、ゆ、り、の、なる、
 釈迦孔子、わ、初、わ、わ、く、ハ、杖、棒、を、用、ひ、た、り、
 事、え、わ、初、是、ハ、宗、奉、初、此、後、なる、わ、初、
 に、わ、初、わ、初、わ、初、初、初、と、わ、初、我、宗、ハ、
 佛、宗、の、上、此、一、是、初、なる、わ、初、は、

魔界より入るから用ひるもの盡し故に
 和柔の士又切臺の人ハまじり孔子比下
 等級又徳なく義に降級しつるもの
 多しよとくしんは疑ひ起る事と考へし
 此の如く工夫の入り事と也疑ひおこるぬ
 内ハ孔子より教を達磨より後ハ成ぬ
 事とあり奉終命より人其後よりあり
 されハ思解と云ふ事の至事とあり思解
 法性の主人より親しく教を授けし今

ハ物と佛者ハ法不段と云ふ孔子は
 佛比支配不出し難えと云ふ法は之を
 少く傷者ハ法と云ふは法と云ふは
 道法親也孔子小わい事と云ふの事
 なる事と云ふ事と云ふ

二之終

茨城縣下常陸國

新治郡上浦町西門

古事如

